

リバティシステムユーザー 各位

# JIS法(2019)及び元号改正に伴う システム変更対応について

# 日付入力方法の変更

## 品質管理 TP採取結果入力

Le3031 T P採取結果入力 Version.3.5.5

TP採取結果入力

メイン画面

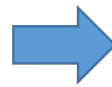
採取日 平成 31 年 02 月 31 日 金 決定 出荷データ検索 予定No 累計台数

現場コード 新 施工者

配合コード 新 規格品 流動後SL

試験区分  0.製品  1.工程  2.代行  3.試験練り  4.その他(X)

試験時間 出荷時間



Le3031 T P採取結果入力 Version.3.5.5

TP採取結果入力

メイン画面

採取日 2019 年 02 月 31 日 金 決定 出荷データ検索 予定No 累計台数

現場コード 新 施工者

配合コード 新 規格品 流動後SL

試験区分  0.製品  1.工程  2.代行  3.試験練り  4.その他(X)

試験時間 出荷時間

## 出荷管理 出荷指令

LN9010 出荷指令 Version.3.6.3

現在時刻 17:54 チャンネル数 0 連動 メンテナンス

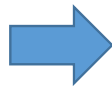
NO	予定	施工者名	現場名	配合	配合名	台数
1						
2						
3						
4						
5						

出荷予定 出荷指示 その他

出荷指令 日付 平成 31 年 02 月 01 日 金 決定 本日予定数量 0.00 本日出荷数量 0.00

予定NO 規格品 配合 目視

施工者名 工程 0回



LN9010 出荷指令 Version.3.6.3

現在時刻 17:51 チャンネル数 0 連動 メンテナンス

NO	予定	施工者名	現場名	配合	配合名	台数
1						
2						
3						
4						
5						

出荷予定 出荷指示 その他

出荷指令 日付 2019 年 02 月 01 日 金 決定 本日予定数量 0.00 本日出荷数量 0.00

予定NO 規格品 配合 目視

施工者名 工程 0回

# 日付入力方法の変更

## 販売管理 請求書一括発行

請求書一括発行

請求先 000030 △△△商事

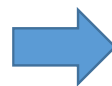
指定締日 全部 締処理日 日付 平成31年02月28日 日付木

印刷範囲・部数を指定する 集計順 コード

請求書印刷 請求書(控)印刷

Pチェックをつけるとう請求書の印刷をしません

Pコード	得意先名	前月残高	入金金額	繰越金額	課税金額	非課税金額	消費税	税込合計	請求金額	前回締
------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----



請求書一括発行

請求先 000030 △△△商事

指定締日 全部 締処理日 日付 2019年02月28日 日付木

印刷範囲・部数を指定する 集計順 コード

請求書印刷 請求書(控)印刷

Pチェックをつけるとう請求書の印刷をしません

Pコード	得意先名	前月残高	入金金額	繰越金額	課税金額	非課税金額	消費税	税込合計	請求金額	前回締
------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----

### ■日付入力

すべてのプログラムの日付入力方法が「和暦」→「西暦」に変更になります。  
帳票関係は、「和暦」「西暦」の選択が可能です。

**JIS法改正対応と同時に元号対応プログラムも導入致します。**

## システムに関わる主なJIS改正内容

### ■ 移行設置期間内に対応が必要な事項

- ・ 配合計画書／納入書の様式変更
- ・ 軽量及び高強度コンクリートのスランプ10cm削除
- ・ 動荷重の混和剤とAE剤を累加計量の判定
- ・ 供試体型枠の検査頻度を1回以上／12カ月

### ■ 必要に応じて発生する事項

- ・ 普通コンクリートにスランプフロー追加
- ・ 高強度コンクリートにスランプ及びフローの追加
- ・ 高強度の呼び強度指定対応
- ・ 安定化スラッジ水の追加
- ・ 細骨材の粗粒率検査頻度（日 → 週）

# 配合計画書様式変更

JIS A 5308 : 2014										
表 10-レディーミクストコンクリート配合計画書										
レディーミクストコンクリート配合計画書										
No. _____										
平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日										
製法会社・工場名 _____										
配合計画者名 _____										
工事名称 _____										
所在地 _____										
納入予定時期 _____										
本配合の適用期間 *1 _____										
コンクリートの打込み箇所 _____										
配合の設計条件										
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スタンプ又はスラブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号					
指定項目	セメントの種類	呼び方欄に記載	空気量			%				
	骨材の種類	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量			kg/m <sup>3</sup>				
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	コンクリートの温度			最高最低 °C				
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 *2		水セメント比の目標値の上限			%				
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	単位水量の目標値の上限			kg/m <sup>3</sup>				
	水の区分	使用材料欄に記載	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限			kg/m <sup>3</sup>				
	面材の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	流動化後のスラブ増大量			cm				
	塩化物含有量	kg/m <sup>3</sup> 以下								
	呼び強度を保證する材料	日								
	使用材料 *3									
セメント	生産者名	種類	密度 g/cm <sup>3</sup>	Na <sub>2</sub> O <sub>2</sub> %						
混和材	製品名	種類	密度 g/cm <sup>3</sup>	Na <sub>2</sub> O <sub>2</sub> %						
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 *4		粒の大きさの範囲 *5	粗粒率又は実積率 %	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量の範囲 % *6	
				区分	試験方法					
細骨材	①									
	②									
	③									
粗骨材	①									
	②									
	③									
混和剤①	製品名	種類			Na <sub>2</sub> O <sub>2</sub> %					
混和剤②					%					
細骨材の塩化物物質量 *7			%	水の区分 *8			目標スラック固形分率 *9			
回収骨材の使用状況 *10	細骨材	粗骨材								
配合表 *11 kg/m <sup>3</sup>										
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
水セメント比 *12			% 水結合材比 *13			% 粗骨材率				

JIS A 5308 : 201X (改正案)										
表 10-レディーミクストコンクリート配合計画書										
レディーミクストコンクリート配合計画書										
No. _____										
平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日										
製法会社・工場名 _____										
配合計画者名 _____										
工事名称 _____										
所在地 _____										
納入予定時期 _____										
本配合の適用期間 *1 _____										
コンクリートの打込み箇所 _____										
配合の設計条件										
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スタンプ又はスラブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号					
指定項目	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法			kg/m <sup>3</sup>				
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 *2			kg/m <sup>3</sup>				
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量			kg/m <sup>3</sup>				
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度			最高・最低 °C				
	面材の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限			%				
	塩化物含有量	kg/m <sup>3</sup> 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限			kg/m <sup>3</sup>				
	呼び強度を保證する材料	日	流動化後のスラブ増大量			cm				
	空気量	%								
	使用材料 *3									
	セメント	生産者名	種類	密度 g/cm <sup>3</sup>	Na <sub>2</sub> O <sub>2</sub> %					
混和材	製品名	種類	密度 g/cm <sup>3</sup>	Na <sub>2</sub> O <sub>2</sub> %						
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 *4		粒の大きさの範囲 *5	粗粒率又は実積率 %	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量の範囲 % *6	
				区分	試験方法					
細骨材	①									
	②									
	③									
粗骨材	①									
	②									
	③									
混和剤①	製品名	種類			Na <sub>2</sub> O <sub>2</sub> %					
混和剤②					%					
細骨材の塩化物物質量 *7			%	水の区分 *8			目標スラック固形分率 *9			
回収骨材の使用状況 *10	細骨材	粗骨材								
配合表 *11 kg/m <sup>3</sup>										
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
水セメント比 *12			% 水結合材比 *13			% 粗骨材率				

■印刷レイアウトについて  
 新様式に対応  
 西暦印字に対応

■骨材・混和材の表示増減数について

- 各骨材の表示数  
 基本各3本表示  
 設定にて各4本表示可能
- 混和材の表示数  
 基本2本表示  
 設定にて3本表示可能

■安定剤について

- 安定剤の項目追加  
 材料マスター「水」に安定剤の使用情報を追加
- 材料月次データに追加  
 安定剤の塩化物イオン  
 安定剤のアルカリ量の登録枠を追加

# 納入書様式変更

JIS A 5308 : 2014

**表 11-レディーミクストコンクリート納入書**

レディーミクストコンクリート納入書

No. \_\_\_\_\_  
平成 年 月 日

殿  
製造会社名・工場名

納入場所		運搬車番		納入時刻		発着時刻		時分		時分	
納入容積		m <sup>3</sup>		累計		m <sup>3</sup>					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ又はスランブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
配合表 # kg/m <sup>3</sup>											
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	
水セメント比	%		水結合材比 <sup>1)</sup>	%		細骨材率	%		スラッジ固形分率	%	
回収骨材置換率 <sup>2)</sup>	細骨材		粗骨材								
備考 配合の種類: <input type="checkbox"/> 標準配合 <input type="checkbox"/> 修正標準配合 <input type="checkbox"/> 計量採取記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から自動算出した単位量											
荷受職員認印			出荷係認印								
注記 用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 5 番 (148 mm×210 mm) 又は B 列 5 番 (182 mm×256 mm) とするのが望ましい。											
注 <sup>1)</sup> 標準配合、修正標準配合、計量採取記録から算出した単位量、計量印字記録から算出した単位量、若しくは計量印字記録から自動算出した単位量のいずれかを記入する。また、備考欄の配合の種類については、該当する項目にマークを付す。											
注 <sup>2)</sup> 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。											
注 <sup>3)</sup> 回収骨材の使用方法が“A 方法”の場合には“5%以下”と記入し、“B 方法”の場合には配合の種類による骨材の単位量から求めた回収骨材置換率を記入する。											

JIS A 5308 : 201X (改正案)

**表 11-レディーミクストコンクリート納入書**

レディーミクストコンクリート納入書

No. \_\_\_\_\_  
平成 年 月 日

殿  
製造会社名・工場名

納入場所		運搬車番		納入時刻		発着時刻		時分		時分	
納入容積		m <sup>3</sup>		累計		m <sup>3</sup>					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ又はスランブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
配合表 # kg/m <sup>3</sup>											
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	
水セメント比 <sup>1)</sup>	%		水結合材比 <sup>2)</sup>	%		細骨材率	%		スラッジ固形分率	%	
回収骨材置換率 <sup>3)</sup>	細骨材		粗骨材		安定化スラッジ水の使用の有・無						
備考 配合の種類: <input type="checkbox"/> 標準配合 <input type="checkbox"/> 修正標準配合 <input type="checkbox"/> 計量採取記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から自動算出した単位量											
荷受職員の認印又はサイン			出荷係の認印又はサイン								
注記 用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 5 番 (148 mm×210 mm) 又は B 列 5 番 (182 mm×256 mm) とするのが望ましい。											
注 <sup>1)</sup> 標準配合、修正標準配合、計量採取記録から算出した単位量、計量印字記録から算出した単位量、若しくは計量印字記録から自動算出した単位量のいずれかを記入する。また、備考欄の配合の種類については、該当する項目にマークを付す。											
注 <sup>2)</sup> セメントのみを使用した場合は水セメント比を記入する。高炉スラグ微粉末、フライアッシュ、シリカフェーム、膨張材を結合材として使用した場合は、水結合材比のみを記入するか、又は水結合材比及び水セメント比の両方を記入する。											
注 <sup>3)</sup> 回収骨材の使用方法が“A 方法”の場合には“5%以下”と記入し、“B 方法”の場合には配合の種類による骨材の単位量から求めた回収骨材置換率を記入する。											

## ■印刷レイアウトについて

西暦印字に対応

安定化スラッジ水の使用の有無の印字対応 (予定入力画面で安定化スラッジ水の使用の有無を選択できるように変更)



# プログラム変更点

## ■ふるい分け試験

細骨材のふるい分け試験の頻度を「毎日」or「毎週」に対応

## ■設定変更点

### ■強度・スランプ又はスランプフローの追加

配合マスター	検索性項目
JIS規格テーブル	規格の有無
ロット管理	ロットテーブル
強度管理図	管理条件
製品検査表	合格判定基準値
製品検査表・工程検査表・代行検査表	検索性項目

**※スランプ、スランプスロー配合は、個別に配合（社内）規格マスターで管理してください。**

# 「JIS2014」と「JIS2019」の切替方法

## 品質管理

コントロールマスターに「JIS2019」チェックと「使用開始年月日」を追加

機能

- オープニング画面を使用する
- 音声ガイドを使用する
- ウィンドウ表示位置を保存する

特殊設定 MCON

協組本社コード

印刷

標準で使用するプリンター  
FinePrint

縮小で使用するプリンター  
FinePrint

日付

和暦  西暦

印刷日付 yyyy年mm月dd日

個別設定

端末使用担当者コード

JIS改正

- JIS2019を使用する

開始日 yyyyymmdd 20190601

## 出荷管理

伝票レイアウト切替は、デスクトップ上に切替ボタンを追加